

JFRお取引先様行動原則の策定と浸透 → **Scope3温室効果ガス** 循環型社会の実現に向けて

Scope3 温室効果ガス排出量削減への取り組み

長期目標

2030年
 Scope3 温室効果ガス排出量
40%削減
 を目指す
 (2017年度比)

JFRグループでは、マテリアリティのひとつに掲げる「低炭素社会への貢献」に向けた取り組みにおいて、自社の温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいきます。さらに、サプライチェーンから排出される温室効果ガス排出量 (Scope3*) の削減についても、SBT認証を取得した長期目標を掲げ取り組みを進めていきます。
*Scope3 : Scope1・2を除くサプライチェーン全体での活動で生じる間接排出

Scope3 算定と削減策

JFRグループでは、2018年に初めてScope3の算定を行いました。

2018年度の実績については、2017年度比で1.6%増加しています。これは、Scope3のカテゴリの一つである「自社の資本財の建設・製造に伴う排出における投資額」が、大丸心齋橋店、渋谷パルコの設備投資により対前年48%増加したことなどが要因となっています。

今後は、第三者機関の保証の取得を目指すとともに、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量の削減に取り組めます。

→ Scope1・2 温室効果ガスについて

カテゴリ別の実績

| カテゴリ | カテゴリ名 | 2017年度排出量 | 2018年度排出量 | 増減率 |
|------|-----------------------------|-----------|-----------|--------|
| 1 | 購入した製品・サービス | 2,701,108 | 2,704,488 | 0.1% |
| 2 | 資本財 | 81,883 | 120,929 | 47.7% |
| 3 | Scope1・2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動 | 17,966 | 17,712 | ▲1.4% |
| 4 | 輸送・配送(上流) | 7,400 | 9,727 | 31.4% |
| 5 | 事業活動から出る廃棄物 | 845 | 759 | ▲10.1% |
| 6 | 出張 | 627 | 627 | 0% |
| 7 | 雇用者の通勤 | 1,158 | 1,173 | 1.3% |
| 8 | リース資産(上流)*1 | - | - | - |
| 9 | 輸送・配送(下流) | 168,727 | 171,229 | 1.5% |
| 10 | 販売した製品の加工*2 | - | - | - |
| 11 | 販売した製品の使用*3 | - | - | - |
| 12 | 販売した製品の廃棄 | 68,423 | 69,679 | 1.8% |
| 13 | リース資産(下流) | 26,914 | 26,914 | 0% |
| 14 | フランチャイズ*2 | - | - | - |
| 15 | 投資*2 | - | - | - |
| 合計 | | 3,074,960 | 3,123,236 | 1.6% |

単位:t-CO₂

※1 Scope1・2排出量で算定しているため、算定除外
 ※2 JFRグループの事業プロセスに該当しないため、算定除外
 ※3 JFRグループの主要事業である小売業での取り扱い商品には大型家電・自動車等は含まれておらず、事業の温室効果ガス排出量への影響は軽微であるため、算定除外

トップ
コミットメントサステナビリティ
推進体制JFRの
マテリアリティ低炭素社会への
貢献サプライチェーン
全体のマネジメント地域社会との
共生ダイバーシティ
の推進ワーク・ライフ・
バランスの実現事業会社の
ESGの取り組み社外取締役
メッセージ

ガバナンス

データ集

JFRお取引先様行動原則の策定と浸透 → Scope3温室効果ガス 循環型社会の実現に向けて

環境配慮型包装資材への切り替え

大丸松坂屋百貨店で使用する包装資材については、2019年9月から環境配慮型の紙を使用した包装資材に順次切り替えています。具体的には、環境に配慮し管理された森林から作られた紙を使用した紙製のショッピングバッグに切り替えました。

海洋プラスチックゴミ問題で注目されている食品レジ袋についても、バイオマス(植物由来の資源)を30%使用した製品に順次切り替えを進めています。その結果、従来製品と比較して1枚あたり約24%の温室効果ガス排出量を削減することができます。

また、保冷便での配送の際、地球温暖化防止に貢献し、ダイオキシンの発生を防ぐ中和剤として利用できるSTONE-SHEET(ストーン・シート)を使った包装資材を使用しています。STONE-SHEETは、国産炭酸カルシウムを利用することで、容器・梱包資材として利用可能な素材であり、燃焼時のCO₂排出量については、ポリエチレンと比較しLCA(ライフサイクルアセスメント)ベースで55%削減につながります。

※ 2018年度ストーン・シート使用枚数は282,450枚(全紙換算)

ペーパーレス化への取り組み

JFRグループでは、Scope3の削減策のひとつとして、伝票や書類のデジタル化などペーパーレス化に積極的に取り組んでいます。J.フロント リテイリングでは2018年ペーパーレス化を進め、その結果、1年間でJFR事務所での紙使用量を約50%減らすことができました。

また、大丸松坂屋百貨店の外商では新システムを導入し、売上を計上する際、紙の伝票の使用から、電子帳票へ移行するなど紙の削減に努めています。

加えて、JFRカードでのカード明細書のWEB化をはじめ、J.フロント建装、大丸興業、JFRサービス、JFR情報センターでも紙ベース文書の電子化やオンラインストレージの活用によるペーパーレス化に積極的に取り組んでいます。

今後は、Scope3温室効果ガス排出量の測定の精緻化に取り組むとともに、更なる削減に取り組んでいきます。

 事業会社のESGの取り組み



森林認証の紙を使用したショッピングバッグ



バイオマスを30%使用したレジ袋



バイオマスマーク

※ バイオマスマークは、一般社団法人日本有機資源協会が認定したバイオマス(生物由来の資源)を利活用し、品質および規格等に合致している環境商品の目印です。



バイオマスプラ